

妻に叱られて⑧

パキラで叱られたこと

土居 修



駐車場の脇にある鉢植えのハーブに水遣りをしていて妻に見咎められてしまった。やばい、と思った。高松地方気象台が1951年に統計開始をして以降、最も早い梅雨明けを発表した夕刻のことであった。

「また買って来たの、しょうがないわね、まったく」
車を降りながら、自分だってハーブを買い漁っているじゃないかと言おうとしたが、止めた。男の美学ではない。男の美学ではない。男の美学ではない。

「また買って来たの、しょうがないわね、まったく」
車を降りながら、自分だってハーブを買い漁っているじゃないかと言おうとしたが、止めた。男の美学ではない。男の美学ではない。男の美学ではない。

「また買って来たの、しょうがないわね、まったく」
車を降りながら、自分だってハーブを買い漁っているじゃないかと言おうとしたが、止めた。男の美学ではない。男の美学ではない。男の美学ではない。

「また買って来たの、しょうがないわね、まったく」
車を降りながら、自分だってハーブを買い漁っているじゃないかと言おうとしたが、止めた。男の美学ではない。男の美学ではない。男の美学ではない。

時折、風格を備えよと説いてくれるが、私にその資質はない。備えているとすれば、あくまで「すればいい」があるが、これに由来しているといえないこともない。

振り返れば、自己肯定感の乏しい人生であった。自尊の感情に至っては皆無。

振り返れば、自己肯定感の乏しい人生であった。自尊の感情に至っては皆無。

はできない。あの日、頑として譲歩しなかったのはまぎれもなく、男の美学であった。設計の最終段階での担当者との会話は今も鮮明に覚えている。

「あなた、自転車ですわね」
私はインシュタインのこのばをもつて、彼のこれまでの仕事ぶりを称え、謝意を表現した。

「走り続けていれば、倒れることはないからね」
彼の表情に微笑みが浮かんだ。そのとき、私の真意は確かに伝わったと安堵した。だが、数十秒の沈黙の後、悲愴な面持ちで「玄関の上を吹抜けにする場合には、

「一般的な家だと玄関はそれほど広くない。そんなところに吹抜けを持つてきても玄関が少し明るくなるだけで、たいした効果は生まれない。玄関に吹抜けを持つてくるには豪邸と称されるくらいの家でないと、後々後悔することになるというのである。」

「あなた、自転車ですわね」
私はインシュタインのこのばをもつて、彼のこれまでの仕事ぶりを称え、謝意を表現した。

「走り続けていれば、倒れることはないからね」
彼の表情に微笑みが浮かんだ。そのとき、私の真意は確かに伝わったと安堵した。だが、数十秒の沈黙の後、悲愴な面持ちで「玄関の上を吹抜けにする場合には、

「一般的な家だと玄関はそれほど広くない。そんなところに吹抜けを持つてきても玄関が少し明るくなるだけで、たいした効果は生まれない。玄関に吹抜けを持つてくるには豪邸と称されるくらいの家でないと、後々後悔することになるというのである。」

「一般的な家だと玄関はそれほど広くない。そんなところに吹抜けを持つてきても玄関が少し明るくなるだけで、たいした効果は生まれない。玄関に吹抜けを持つてくるには豪邸と称されるくらいの家でないと、後々後悔することになるというのである。」

「一般的な家だと玄関はそれほど広くない。そんなところに吹抜けを持つてきても玄関が少し明るくなるだけで、たいした効果は生まれない。玄関に吹抜けを持つてくるには豪邸と称されるくらいの家でないと、後々後悔することになるというのである。」

「一般的な家だと玄関はそれほど広くない。そんなところに吹抜けを持つてきても玄関が少し明るくなるだけで、たいした効果は生まれない。玄関に吹抜けを持つてくるには豪邸と称されるくらいの家でないと、後々後悔することになるというのである。」

「一般的な家だと玄関はそれほど広くない。そんなところに吹抜けを持つてきても玄関が少し明るくなるだけで、たいした効果は生まれない。玄関に吹抜けを持つてくるには豪邸と称されるくらいの家でないと、後々後悔することになるというのである。」

「一般的な家だと玄関はそれほど広くない。そんなところに吹抜けを持つてきても玄関が少し明るくなるだけで、たいした効果は生まれない。玄関に吹抜けを持つてくるには豪邸と称されるくらいの家でないと、後々後悔することになるというのである。」



土居家の玄関に鎮座する樹高7メートルの「奇跡のパキラ」

「奇跡のパキラ」
「一般的な家だと玄関はそれほど広くない。そんなところに吹抜けを持つてきても玄関が少し明るくなるだけで、たいした効果は生まれない。玄関に吹抜けを持つてくるには豪邸と称されるくらいの家でないと、後々後悔することになるというのである。」